

第 26 回(平成 21 年度第 6 回) ISO/SR 幹事会 議事録

1. 開催日時 : 平成 21 年 12 月 1 日 (火) 14:00~17:00

2. 開催場所 : 都道府県会館 4 階 408 会議室

3. 出席者 : 【敬称略・五十音順】 出席者(○)、欠席者(×)

委員:松本 恒雄(一橋大大学院)○、足達 英一郎(日本総合研究所)○、稲岡 稔(セブン&アイ・ホールディングス)○、井上 悟志(経産省)×、逢見 直人(連合)△(代理:川島)、長見 万里野(消費者協会)○、熊谷 謙一(国際労働財団)○、黒田 かをり(CSO ネットワーク)○、斎藤 仁(経団連)○、佐野 真理子(主婦連合会)○、関 正雄(損保ジャパン)○、富田 秀実(ソニー)×、仲田 賢(連合)○、成田 裕紀(内閣府)○、水谷 綾(大阪ボランティア協会)○

関係者:濱坂 隆×、宮澤 武明○(以上経産省)、佐藤 洋×、小堀 紀子○(以上三菱総研)

オブザーバ:網野 直英(経団連)、鈴木 均 (NEC)、堀江 良彰(難民を助ける会)

事務局:岡本 裕○、佐藤 恭子○、櫻井 三穂子×(以上 JSA 記)

4. 議事次第:

- (1) 議事、資料及び前回の議事録の確認
- (2) DIS コメントの検討
- (3) 今後のスケジュールの確認

5. 資料:

- WG I-26-1 第 25 回 ISO/SR 幹事会 議事録 (案)
- WG I-26-2 DIS コメント候補【項番号順】
- WG I-26-3 ISO 26000 DIS【原文】
- WG I-26-4 ISO 26000 DIS【仮訳】
- WG I-26-5 幹事会での DIS コメント検討の進め方
- WG I-26-6 今後のスケジュール

参考資料 1 Note on ISO 26000 Guidance Draft Document (John G. Ruggie)

参考資料 2 ISO26000 アクセス無償化要請関係の論議等の動向

6. 議事概要：

6. 1 議事、資料及び前回議事録の確認

事務局から、議事及び資料の確認が行われ、議題は異議なく了承された。

また、幹事会規約第7条2項の成立条件に照らして、今回の幹事会がその条件を満たすことを報告し、幹事会の成立を確認した。

さらに、経団連の網野氏、NEC の鈴木氏、難民を助ける会の堀江氏の3名のオブザーバ参加について紹介があり、全会一致で了承された。

6. 2 DIS コメントの検討

資料 WGI-26-2 にしたがって、事務局から、資料 WGI-26-5 のクライテリアに基づき事務局が行ったコメントのスクリーニングの結果について説明が行われた。あわせて、純粋なエディトリアルコメント（#13、14、36、44、79）についても紹介があった。これに関する主な議論の内容は次のとおり。

#44 について：

- ・ 6.3.7.2は参照として必ずしも的確でないのでは？6.3.7.2 よりむしろ 6.3.7 の方がいいのではないか。或いは、「参照箇所の誤りであり、混乱を招く」として、参照を削除としてみてもいいのではないか。
→削除しても構わない。（消費者）

<アクション（結論）>

- ・ #44 は、次のとおり修正の上、採用する。
コメント：「6.3.7.8 項を参照」は参照箇所の誤りであり、混乱を招く。
修正提案：参照を削除する。

#10 について：

- ・ そもそも ISO が他の団体のことについて解釈を述べるのは如何かと思ひ、意見している。皆様のご意見も伺いたい。
- ・ もともと政府のコメントによるもの。かなりの妥協の産物。WTO にもこの文書でいいかどうかを確認することになっていたはず。
- ・ IDTF は#10 と同様の考え。説明では、ISO の文書に（WTO/TBT の解釈を）書いては

いけないとは言わなかったが、法律上の意味があるとも言わなかった。常識的には、ご提案のとおりであり、もう一度提案してみる価値はあると思う。

<アクション>

- ・ #10 は、今後の検討の対象とする。

#11 について：

- ・ 前は、「TG6 の申し送り事項だった」として提案していたが、TG6 のコンビナーに確認が取れず、不採用となってしまったという理解。この規格の 7.6 と 7.6 には、MMS に近い表現が多々あり、これを修正する提案ができないのであれば、これらの用語が辞書的な意味であることを明記することに意味はあるのではないか。
- ・ 定義のところだと一度議論したということになってしまうので、Box1 に入れるというのはどうか？

<アクション>

- ・ #11 は、Box1 含める方向でコメントを修正する。(産業界)

#78 について：

- ・ ケベックで Annex の取りまとめ役 (Aron) に確認したところ、企業行動憲章は、Annex のクライテリアに合っているということだったが、その後の選択で載らなかったという理解。できればこのコメントは残していただきたい。
- ・ クライテリアには明確にはないが、地域バランスにも配慮する必要がある。
- ・ Annex を少し広げるという議論になった時のために残しておくといいと思う。急になくなったというのではネガティブな印象になってしまう。

<アクション>

- ・ #78 は、今後の検討対象とする。

以上の議論の後、「基本的に支持する」の取り扱いについて確認があり、「基本的に支持する」というコメントについては、最終的にバランスを見て取扱いを検討することになった。

続いて、コメント#4 から検討を行った。主な議論の内容と結果は次のとおり。

#4、#18 について：

- ・ CD 段階でコメントとして提出したが不採用となったものだが、「政府が率先して推進する」というのが望ましいのではないかとということで、再度提案するもの。

- 前回の否決の理由は、3.4 を社会的責任と国家の関係に特化したことによるもの。3.4 に入れるよりは、3.2 に入れるという手もあるかもしれない。
- **Governmental organizations may wish** を削除して、代わりに「政府組織こそ率先してやるべき」といった逆の文書にするか？それだと議論が振り出しに戻ってしまう。
- **in many ways** のひとつのやり方として、**However** 以下に政府組織が範を示すべきということをポジティブに書き込む方がいいのではないか。
- **Governmental organizations** は他の組織と一緒に扱いにしなければいけないのではないか。
- 440 行と 441 行の間で、「こういう時代に **Governmental organizations** が・・・」という提案にする手もある。又は、445 行と 446 行の間に新たなパラグラフを入れるのはどうか？
- **crucial roles** の例として、**such as** 政府系組織が **SR** を率先して実施するとするのはどうか？
- **Recent trends** として政府が頑張っていて他の組織に範を示している例もあるとするか？
- 「政府が率先してやるべき」とすると反発が出るのであれば、「政府が率先してやることによって結果的に良い結果が生まれる」というような表現としてはどうか。
- 446 行～447 行に政府が率先してやることによっていい結果が生まれるということを入れるか？
- 背景の中にそっと忍び込ませるほうが入りやすいが、それではあまり意味がないのではないか。
- 444 行の **A growing number of organizations now produce**・・・に **including governmental organizations** とすることもできるだろう。
- 3.4 にだめもとで出しておいて、3.2 でもコメントを出すというのはどうか。
- サプライチェーンにおいて、調達などで他の組織に影響を及ぼすことが言いたいのであれば、5.2 のサプライチェーンのところに入れてはどうか。
- 5.2 のサプライチェーンに政府のことを入れるのは厳しい。
- **may wish** を入れたことによって政府を特別扱いしてしまっている。正論を言えば削除提案か？
- **Governmental organizations** が範を示すべきというのは違うのではないか。
- 149 行が大前提。主語が **Government organization** となっているので、他と違う印象を与えてしまっているのではないか。
- 「特別扱いしない」という考え方の方がいいというのが規格の趣旨に合っていると思

う。may wish to のところも like any other organization となっており、その主旨に合っている。自ら率先してというのは言いすぎではないか。

- 政府は自ら率先してやるべきとするか、普通の組織と同じというレベルでとどめるべきか基本的スタンスをどうするか？
- 日本のような国では率先してやらしてもらわなければならないことがあるが、他の国では期待できない場合もあるから、NGOなどがちゃんとやっていこうという意識が強いのではないか。政府だけ責任をより強めるのはどうかと思う。
- Stateは例外だが、Governmental organizationsが例外ではないということを言うためにmay wishという文が入った。その意味で、ぎりぎりのところでISO26000としては一貫した立場に立っている。もし、政府組織が率先して範を垂れるべきであるという一文をいれなくてもいいのであれば、このままでもいいということになるが。
- 一方で、人権の部分はStateが重要な役割を担っているが、その他の部分でも政府がそのような役割を担っているという部分もある。

<アクション>

- #4、18は持ち帰り、検討する。(労働)

#6、#7について：

- 規格の本文に対するコメントを固めてから、最後に議論することにしてはどうか。

#12について：

- CDで日本コメントとして出して不採用となったものだが、Expectationsだけでは弱いので、だめもとでもう一度主張すべきと思う。
- Fundamentalを入れると限定的になってしまうが、それでいいのか？
- だいぶ議論があったところ。Expectationsは確かに広いが、弱いのではないかという議論もあった。
- 何がFundamentalかという議論は、何がExpectationsかという議論と基本的には一緒。突き詰めて言えば、Fundamentalがあろうとなかろうとあまり変わらないかもしれないが、Fundamentalを入れるとニュアンス的にはより限定的ではあるが、拘束力が強いイメージとなる。
- 国によっては、Expectationsであると、WGの意図が弱まるという意見などもあったが、ウィーンとサンチャゴで議論してExpectationsになった。コメントを出したところで、問題意識があるということにはなるだろうが、簡単には通らないだろう。

- ・ 具体的にどのようなものを示すために Note で注意書きがなされている。敢えて Fundamental を入れる必要はないのではないか。
- ・ 本文では Expectations であり、定義で Fundamental とすることにどのような意味があるか？SR の定義でも、ステークホルダーの Expectation となっている。
- ・ コメント#12 の「実効性を持たせる」とはどういう意味か？
- ・ 単なる「期待」ということで終わっていて弱いということ。
- ・ そのような漠然としたことで拘束されたくないということか？それとも、Expectations というのが漠然としすぎていて誰も守らないから意味がないということか？
- ・ Expectations を定義しているわけではなく、International norms of behaviour が概念的にすっきりと理解できるかということが議論であって、Expectations が曖昧ということも議論してもらえないだろう。

<アクション>

- ・ #12 は持ち帰り、検討する。(労働)

#13、14 について：

<アクション（結論）>

- ・ #13 を採用。

#15、#16 について：

- ・ 半数を目指すということが一番いいのか？あまりにもジェンダーバランスが失っている場合には、ターゲットはあった方がいいかもしれないが。
- ・ #15 の一文は維持して、内容を追加するのがいいと思う。
- ・ #16 の target についてはどうか？
- ・ equality については他でも触れている。数字合わせ、比率ではなく、新しい要素としてベストプラクティスなど幅広い観点を加えたほうがいいのではないかと。全体のバランスを取るという意味では置き換えが望ましい。
- ・ 北欧などでは target はいらないくらいだが、日本ではまだ必要という段階。
- ・ 米国などで過去に逆差別などの問題が起こったことがあった。target を前提とするのはどうかと思う。参入障壁がないということの結果として平等が実現されるというのが望ましいのではないかと。
- ・ 50/50 とすると究極の parity なので逆の問題が起こってくるかもしれないが、1 割以上、2 割以上であれば、逆差別でもなく、参入障壁でもないはず。target の設定がど

のあたりかにもよるのではないか。

- parity が“数”ではなく“質的な同格”という意味合いでこの文章があるのであれば、この文章は問題ないと思うが、数的な意味であれば、数合わせの問題が出てきてしまうので、「あまりに偏りがある場合の改善」という意味合いの文章に置き換えてはどうか。そうであれば、下の target はそのままでもいいのではないか。
- 上に産業界の提案の参入障壁に関する実施的な表現を入れれば、下も parity の問題はなくなる。
- ベストプラクティスを入れるということは考え方として入れるのが大事。
- 最後に An organization should refer to best practices などとしてはどうか。
- parity を目指すという表現は誤解を招くかもしれない。
- 機会の平等であっても構わない。結果平等に関する文章が一番初めにでてくるのはどうかと思う。

<アクション（結論）>

- #15 は修正採用。with the aim of の後に産業界の提案の主旨をつなげる。ただし、barriers for women は、gender barrier などとする。
- #16 は修正採用。Organizations are encouraged to use indicators, target and refer to best practice references...とする。

#17 について

- 重複をなくすということと必要な最低限のものは残すということのバランスが難しいところ。ここのところは一番のトピックなので残すという判断になるかと思う。重複するというだけでなく、全体的に無くてもいいということをどのように言うか？
- 最初のセンテンスだけでも本質は言えているので、定義を繰り返す必要はないのではないか。
- 言い尽くされている、として短縮の提案とする。

<アクション（結論）>

- #17 は修正採用。前半部分で言い尽くされている、として短縮の提案とする。

#21 について：

- 組織が社会や環境の中にあるということが重要と思う。社会の外に組織があるというのは決定的にまずいと思う。
- 本文と絵が異なる。例えば、stakeholders are part of society という文章があるが、絵

には反映されていない。

- ケベックでは、コミュニティのところでも、「組織はコミュニティの一部」という記述があるのに、絵と矛盾しているという議論があった。記述と一貫していないと混乱するだけだと思うので、産業界の提案を支持したい。
- IDTF の意図は、社会と組織とステークホルダーの3つの機能を図で示すことであって、包含関係ではない。タイトルが **Relationship** となっており、機能を示すものなのか包含関係を示すものなのか分かりにくくなっている。
- ステークホルダーでない社会というのは存在するのか？
- 定義によるとステークホルダーは **identify** しないとステークホルダーにはならない。
- 全体に **environment** を入れるとかなり大きな修正提案になってしまう。6章の課題の **environment** の関係があるので、敢えて言わなくてもいいのではないか。
- 地球環境という意味で **The environment** としている。むしろ、ステークホルダーと社会の関係のパラは必要ないのではないか。3者関係で説明しないといけないと最初から思い込んでいるからこのような図になってしまうのではないか。
- **The environment** が存在しないと、この図は成立しないのか？ **The environment** を入れるとまたいろいろな議論が沸き起こってしまうだろう。
- 持続可能な発展というものをこのガイダンスの精神とするのであれば、**The environment** があつたほうがいいだろう。
- 正確に図を書こうとすると、包含関係の図と機能関係の図の二つが必要になる。ここで言おうとしているのは、むしろステークホルダーは神様ではなく、社会全体がよりよい社会を作ろうとする期待とステークホルダーの利害はぶつかることがあるということ踏まえて次のパートに行こうということではないか。そういう意味では、3番目のステークホルダーと社会の関係が重要なのではないか。
- 必ずしもステークホルダーが言ったことをすべて飲み込む必要はないという点もポイント。それを残しておくためには、3者構成にしておく必要がある。
- その意味では、**For example** 以下に矛盾に満ちた例を挙げたほうがいいのか？
- 例えば、株主に高額の配当を払うことがいいことか？などといった例か？
- 松本委員長：皆で良い例を考えて、日本から何か提案することにしましょう。その上で、図についてはどうするか？
- **Expectation** と **Interests** の色を変えるか？
- **Conflict** があるのであれば、そのような図にすべき。ステークホルダーという一般的なものではなく、特殊なケースとしたほうがいい。
- それだったら図はなくてもいい。

- ・ 重ならない部分があまりに大きいのは、ステークホルダーの言うことはあまり聞かなくてもいいということになってしまわないか？
- ・ 日本企業では、会社は社会に生かされているという考え方がある。その意味では、この図は通らない。
- ・ 機能を説明しているのに、読者は位置関係や包含関係を見てしまうことが問題。
- ・ 提案の図をもう少し単純化できないか？或いは、機能を図にするのを止めたほうがいいという提案をするか？
- ・ 矢印をなくして、包含関係だけにするか？
- ・ 矢印は残したい。
- ・ それだったら矢印の色や形を変え、必ずしも一致しないことを Note するか？
- ・ **The environment** をなくすか？
- ・ 613 行にあるように前提があるのだから **The environment** は是非残してほしい。
- ・ 5.2.1 は 3 者の機能関係を説明しようとしているもの。 **The environment** を入れると、本文を変えなければいけなくなってしまう。また、6 章の環境以外の問題をどうするかという議論になってしまう可能性もある。
- ・ 環境へのインパクトは、人間に対するインパクトという意味だけでなく、もっと大きな捉え方をしたほうがいい。
- ・ **The environment** を小さくして、出すだけ出してみたら？
- ・ 文章にも、762 行に **society and the environment** として **environment** を入れてほしい。
- ・ 環境は環境独自で存在するのではなく、社会との関係で存在するのであれば、環境に対する利益は社会の利益。そうであれば、**society** の中には環境利益も入っているという理解でいいのではないか。
- ・ **SR** の定義自体に社会と環境がある。その意味で環境と社会の関係を示すのは有益と思う。ただ、このメインテーマではないので、薄く書くのがいいか？
- ・ **society** と **environment** を機能関係で示すとどのようになるか？
- ・ **Environment** から矢印が出ることはないだろう。

<アクション>

- ・ #21 は例示も含めて次回再検討。

#58 について：

<アクション>

- ・ #58 は NGO と産業界で修正案を作成する。

6. 3 今後のスケジュールの確認

次回は、12月8日（火）午後に開催することとなった。6.8 コミュニティから検討を行う。また、次次回は、時間を変更して12月10日（木）17:30～20:30に開催することとなった。

以 上